

ごあいさつ

生涯学習の支援はわが国の文教政策の重要な柱になろうとしています。来年度の文部科学省予算（政府案）を見ると、対前年比で59%という大幅に増額された政策課題「現代的課題に対応できる人材養成と機能の多様化」の中に「社会人の学び直しニーズ対応プログラム」という項目が新設され、18億円の予算が計上されています。

これには2つの社会的背景があると考えられます。第1はITやバイオなど新しい技術分野の進歩が速く、実社会の第一線で活躍し続けるためには、常に勉強していなければならない状況になっていることです。政府の新経済成長戦略においても横断的施策として「ヒト（人財力）」が真っ先に挙げられていて、将来を担う人財への投資を強力に展開する方針が示されています。その方針の一つに教育の産学連携がうたわれています。

第2は、従来からニーズのあった社会に出てからも学びを続けたいという人々の欲求です。この欲求は高齢化と共にますます高くなっていくようです。

いずれにせよ、知能を持つ唯一の動物 人間にとって、学び続ける、つまり、アタマを使い続けることが生きる上で悪いことであるはずがありません。これは健康のために体を鍛えることと同じなのです。

長岡大学が昨年に行った市民向けの講座はいずれも好評で、多くの方々が出席されました。これからも皆様のニーズにあった講座を開いていきます。第1のニーズに対しては、昨年は主として地域研究センターが市や産業界と連携して本格的に取り組み始めました。こうした長岡大学の取組に対して是非、ご要望、ご意見をお寄せ下さい。

平成19年3月

長岡大学長
長岡大学生涯学習センター所長
原 陽 一 郎